



衣川 実介

『サビない鉄を求めて 3』

ステンレス鋼生誕100年、その製造や販売に関連する業界ではこんなロゴを作り、各種の催しを開いています。ステンレス鋼の誕生秘話は夢通信3月号に記載しました。イギリスのH・ブレリアンが1913年に発明したことにちなみます。しかし、ステンレス鋼に関わる鉄・クロム・ニッケル合金の発明は、ただ1つの発明によって得られた1種類の合金ではありません。ヨーロッパの多くの国の色々な人物によって行なわれた改良や発見を経て得られた各種の鉄合金の製作の積み重ねです。

最初は1894年にドイツの兵器メーカー、クルップ社がクロム・ニッケルの鉄合金を強靱鋼として防弾鋼板に開発し使用しました。フランスのギレーが1903年から、鉄・クロム・ニッケル合金を含む各種鋼合金に関する論文を発表しました。この後、鉄・クロム・ニッケル系の合金は、ドイツのクルップ社の研究員達によって大きく進みました。彼らの研究成果は、数々の特許を取得しています。台所用品として、ステンレス鋼の代名詞になっているSUS304はこのとき、虫歯を覆う金歯の代替素材として開発されたものです。

ステンレス鋼は色々な種類のものが用途に応じて開発されてきました。現在、改めてステンレス鋼とは何かと尋ねられると、巾が広く内容が複雑なので、判り易く説明するのは困難です。次の機会に改めて説明させていただきます。



ステンレス鋼生誕100周年
世界共通ロゴ・マーク

各種鋼合金に関する論文を発表しました。この後、鉄・クロム・ニッケル系の合金は、ドイツのクルップ社の研究員達によって大きく進みました。彼らの研究成果は、数々の特許を取得しています。台所用品として、ステンレス鋼の代名詞になっているSUS304はこのとき、虫歯を覆う金歯の代替素材として開発されたものです。

こぼれ話 20 『ニッケルとクロムの 語源』

ニッケルは、スウェーデンの化学者で鉱物学者、アクセル・クロンステットが、1751年にニッケル鉱石から分離した元素です。

この名称は、ニッケル鉱石が銅鉱石に似ていながら銅を取り出すことができないことから、ドイツ語で「Kupfernickel (悪魔の銅・魔法にかけられた銅色の鉱石) と呼ばれていたことにちなみ、「Kupfer (銅)」を除いて「nickel」としたものです。

(参考ホームページ)

<http://gogen-allguide.com/ni/nickel.html>

クロム 語源

クロムは酸化の状態によりさまざまな色を示すのでルイ＝ニコラ・ヴォークランによってシベリア産の紅鉛鉱から発見されました。酸化状態によってさまざまな色を呈することからギリシャ語の色にちなんで命名された。ヴォークランはこの翌年(1798年)ルビーが赤いこと、エメラルドが緑色であることについて、クロムが不純物として入っているためであることを発見しました。

(参考ホームページ)

http://blog.livedoor.jp/aroma_master/archives/51306398.html

『鉄のふしぎ博物館』

来て! 見て!
ふれて! ふしぎ体感



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/yume/120301.pdf>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

e-meil ryou@memenet.or.jp

ホームページアドレスは3月号の記事ページです。